
空きビル

ちほ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

空きビル

【Zマーク】

N5107C

【作者名】

ちほ

【あらすじ】

ある女の子がいた。名前は香住。幸せな家庭に生まれた女の子だつたが悲劇が何度もおこる……。母親の死に自分の姿を消して……？

幸福な家庭だった。

長女の香住は優しい子。明るくて友達もすぐにたくさんてきて、力リスマ的な存在だったと言えよう。香住は小さな頃から相手の考えることがわかり、すぐに「相手の場合になつてみると……」と考えていた。

あんな出来事がなければこんな性格にはならなかつただろうに……。

2600年香住の母親香は洋輔と結婚した。デキ婚だったが、結婚して数か月して香住が生まれた。

初めての子供であったこともあり洋輔は生活費・養育費を、香は教育・家事にお互い力を入れた。そう、二年間ほどはそんな生活が続いていた。

幸せ過ぎていた。洋輔も香も力を入れすぎた。
悲劇は起きた。

「死にたい」

洋輔が仕事から帰つてくるなり言いだした。香は洋輔を見た。目が…目が生きている人の目とは思えないほど黒くゆがんでいた。「毎日仕事忙しくて疲れたんだよね。私も頼りきつてたところもあつたよね。今日はもう寝なよ。香住には私から言うからさ。」洋輔は頷いて寝室へ向かった。香は座り込んだ。今までの洋輔ならあんなこと言はずがない。心配になつた。明日病院に連れていこう。丁度明日は会社が休みの日だ。

「お父さんは?」 「お父さんは疲れちゃつたからもう寝ちゃつたよ。香住も早く寝なよ。」「はあい」「はあい」

翌日

香は洋輔を連れて市民病院に連れてきた。

「ストレス性

のうつ病です。お薬を出しておきますので朝、昼、晩、寝る前に必ず飲んでください。また一週間後にきてください。」うつ病…。香の目に涙はなかった。香はその場にしゃがみこんだ。

十ヵ月後、奇跡が起きた。洋輔がまた以前のように元気になつたのだ！洋輔はこの十ヵ月間影で支えてくれている香の為に、本氣で心配してくれている香住の為に、薬を欠かさず飲み、安静に過ごしてきた。念をおされて香と洋輔は病院にきた。

「奇跡です！以前のように表情も暗くないし、田中ちやんと正常だ。念のため残りの薬は全部飲んでください。もつ病院にはこられなくて結構ですよ！」

やつた！本当に洋輔が治つた！これから幸せな家庭が…………。ドターん！香が倒れた！洋輔が急いで医師に診察してもらつた。「彼女もうつ病です。さつき倒れたのはめまいと睡眠不足のせいでしょう。お薬をだしておきます。」

俺が飲んでいる薬とほとんど同じだ！なんて思いながら一人で家に帰つた…。「じめつ…………つ。治つたばかりなのに…………」「と、泣きながら泣つ香を洋輔はそつと抱いた。香住はもう寝ていた。一年後、長男大和が生まれた。香住四歳、大和零歳。四年後。香住小学校三年。大和四歳。悲劇は起きた。香が信じ」という男と浮氣をした。万引きもした。

洋輔はキレた……。

「そんなにここといるのがいやなら出てこつてくれても構わない！」

香は言い返せなかつた。香住は香に言つた。

「あたしはお母さんの好きにすればいいと思う。お母さんの人生なんだからさ。お母さんが何をどう選ぼうとあたしは干渉しない。」なんて大人びたことをいうのだろう。でも香は理由を知つていた。だから香はただ、ありがとう、としか言えなかつた。

結局香は出でては行かなかつた。

一年半後。香住もうすぐ五年生。大和もうすぐ一年生。ちょっとし

た出来事が起きた。香住が頭痛を理由によく早退してきたのだ。

洋輔と香は嫌な予感がした。二人は香住を病院に連れていった。

「だいぶストレスが溜まっていますね。お薬を出しておきますね。」

香は信仁と切れてなかつた。香は香住の一件があつた後から信仁に 対して暴力的になつた。それに頭にきた信仁は暴力を振つてしまつた。香はよく鼻を折つたり、コート（服）に血を付けて帰つてきていた。

香が薬をたくさん飲んで一、三日間眠り続けることはよくあつた。四月の半ば頃香は薬をたくさん飲んで寝てしまつた…。

香が眠つて三日目。

香住と大和が行つている学校では『一年生を迎えるかい』が行なわれていた。二人は家に帰つてくるなり、別々の行動をとつた。大和はゲーム、香住は香の様子を見に行つた。なかは暗く、香は布団のなかで横になつていた。香住が香の顔を覗いてみると…！目は半開き、口からは血が一筋垂れていた。顔は冷たかつたが、背中はものしごく暖かかった。死因は脳内出血だった。

香住は中学一年の終わり、姿を消した。香住の姿はある古びた空きビルの一階にいた。ある男と一緒に…。そう、信仁だつた！

香住は知つていた。香が脳内出血になつたのは信仁に殴られたり蹴られたりの暴行を受けたためだつた。

洋輔はそのことを知つていたが、あえて黙つていた…。

「ここで決着を付ける！」大の大人相手に女子中学生が勝てるはずがなかつた。

「お母さんごめん。仇打てなかつた…。大和、お父さん…大好きだつたよ…」香住はその場に…倒れた…。

香住の目には涙はなかつた。優しい眼差しだけがただただ残つた…。

(後書き)

洋輔は再婚をし、女の子を一人授かった。名前は香住。再びサバ
イバルが始まつた……！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5107c/>

空きビル

2010年10月16日11時42分発行